

見出し	地震で心配なこと、困ること				対 策	誰 が			い こ	
						自分	地域	行政	今から	その時
避難路	避難場所までの道のりかたこうある	津波が来たときに年寄りか逃げる道が悪い	津波の時に逃げる高台がない							
地域の交流	火災が発生した場合に消火はどうするか	地震の情報を早く伝えてほしい 津波の状況を早く伝えてほしい	小学校(避難場所)への避難路がつかれているが、一面所の地権者の了承を得られず困っている	老人(寝たきりの人を確実に避難させる体制を前段から養つと	避難訓練をくり返し行う(住民参加) 老人、子供も参加する 両隣を気にかけて声をかける(日頃が大事) 年2回、6ヶ月に1回 避難訓練をする 真剣に 皆が参加する 皆が完全にできるまで 障害物を置いておく					
	津波が来た時に老人をどうするか	家庭の出来る防災助け合い 住民の協力								
避難場所 避難路確保のため協力をしてもらえるような条項をつくってほしい	避難場所は確保してあるが地震が来た時に確保できるか	津波の場合、避難場所が高くなって心配である	避難場所が8mくらいの高さしか(元小学校)ない	地震で避難場所までの道路がブロック塀の倒壊で多分通れなくなる	逃げる時は時間を計ってやり りやカーが通れる道を確認 場所によるが担架よりネコ車がいいのでは 逃げ道について ブロック塀はやめて平坦にする					
	避難場所が安全とは言えない状況にある 津波の時でも安心できること	地区に拡声器はあるが、アナウンスができるか分からない 全戸にプザー等をつけてはどうか								
ハードの対策	行政が防災について指導してほしい 地震発生訓練を1年間で2-3回を希望する	常に地震を想定しての訓練が必要だと思う	裏山が崩れる(急傾斜地指定)	海岸の浸食により浜が短くなり津波が心配である	2つの逃げ場所を確保 青少年自然の家 岩戸地区では近くに銀行の4階建のアパートがあるので、行政の協力で避難場所にしてほしい 銀行職員の住宅					
	国道が通行止めになり孤立化する	津波に対する海岸堤防があまりにも貧弱である 対応を急ぐこと	部落の中央部が海岸水準とあまり高くない 元川と西の小川から津波がくる							
周知・避難・訓練・避難所での生活を出来るだけ問題なくやれること	津波で家、人が流される	地震で家が壊れる	津波がくると川の近くの家が流出する	電気がなくても放送ができるもの						
	家に居ても聞こえる放送	津波でブロックが壊れる	海岸と川がせまった地形であるので、両方から攻められる							

